



人間と機械の関わり

宮城教育大学附属中学校二年 船山真理子

私たちは、毎日、掃除機や洗濯機、プリンタ、コンピューター等の機械をたくさん利用している。もし、機械がなかったら私たちはどのような生活を送っているのだろうか。私の一日を想像してみた。

朝、太陽が昇る頃起床。井戸水か湧き水で顔を洗い、口をすすぐ。薪で火をおこして朝食を作る。日時計を見て、八時頃学校へ向かう。太陽が南中高度にさしかかるとお弁当の時間だ。日時計が五時を指す頃帰宅。ろうそくの明かりで夕食を食べ、その後勉強や宿題をする。ろうそくの明かりは薄暗いから、本を読むと目が疲れて、すぐ眠くなるかもしれない。そういうときは、鉄釜の五右衛門風呂に入り、一気に目を覚ましてまた勉強。

こうして見ると、時間はゆったり流れるけれど、火も水も光もスイッチ一つ、またはパールの上げ下げだけですぐに手に入るわけでは

ないから、不便な生活を強いられることにな
るだろう。掃除をするときは、ハタキと雑巾。
洗濯は、洗濯板とたらいを使った一日がかり
の力仕事になるかもしれない。
様々な機械が発明され、発達したことで効
率的に作業ができるようになり、生活は格段
に便利になった。今や私たちの生活は機械の
恩恵無しには成り立たないほどだ。機械によ
って人間は多くの自由な時間を手に入れるこ
とができたが、ただ、便利な生活を満喫して
いるだけで良いのだろうか。
これからは、機械ができることは機械に任
せ、人間は、人間にしかできないことにもつ
と力を注いでいく必要があると思う。例えば、
何故？と疑問を持ち、深く考えること。美し
さを感じ、それを様々な手段で表現すること。
周囲の人や動物、植物に愛情を注ぐこと。今、
手に入るものから想像を絶するようなものを
創り出すこと。私は、人間にしかできないこ
とをたくさん見つけ、それを大切にしていき

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

たいと思う。